

雄雉香炉

这件雄雉陶瓷香炉是本馆内最珍贵的藏品之一，由 17 世纪著名陶艺家野野村仁清烧制而成。

仁清被誉为京烧（一种起源于京都的彩陶风格）大师。仁清创作的精美作品深受京都武士精英阶层欢迎，他们会在茶之汤（亦即茶道）中使用这些陶瓷器具。许多现存的早期京烧作品均为茶具，例如这件雄雉香炉。一般来说，主人会在茶室的“床之间”（凹间）摆放季节性装饰品。雉鸡传统上与春天联系在一起，因此这件香炉可能用于春季集会时以营造季节氛围。

这件作品从多方面展示了仁清的精湛技艺。其中，栩栩如生的羽毛是釉上彩的典范。釉上彩（日语为色绘）是一种开创性的陶瓷装饰技法，在仁清所处的时代才刚从中国引进。所谓釉上彩，是在已完成上釉和烧制的作品表面绘制彩色釉料的技法。随后，作品需在低温下经过第二次烧制，以融合两层釉料。由于釉料在烧制过程中会液体化及变色，陶艺家必须清楚地了解釉料在不同温度下会发生的变化，以使其作品呈现出理想效果。据传，釉上彩技法是 12 世纪末在中国金代的磁州窑开创出来的。

雉鸡的造型同样精妙。仁清将粘土细致地分层，使雄雉的头部微微扬起，神态警觉，姿势生动。雉鸡长尾的水平角度也是一项高难度工艺，因为在烧制过程中，黏土容易因自

コメントの追加 [u1]: 【要確認】
本プロジェクトにおいてすべて、媒体関係なく、各段の始まりでは2文字下がるスタイルを取っていますが、統一する必要はないでしょうか。念のためご確認をお願いいたします。本資料においてすべて同様。

コメントの追加 [VT2R1]: スタイルマニュアルには、媒体ごとでインデントの使用（ウェブの場合は使用なしなど）が異なると記載されています。

コメントの追加 [u3]: 【要確認】
「石川県立美術館」を「博物館」として訳して問題ないでしょうか（因みに 012-058 などでは「美術館」を使っています）。念のためご確認をお願いいたします。以降、本ファイルにおいてすべて同様

コメントの追加 [VT4R3]: 変更いたしました。

コメントの追加 [u5]: 【要確認】
本プロジェクトではこれまで（他社の翻訳ですが）、日本人の氏名はすべてフルネームにしています（立て続けて出てくる場合、「他」などで対応）。スタイルを統一する必要はないでしょうか。念のためご確認をお願いいたします。以降、本ファイルにおいてすべて同様

コメントの追加 [VT6R5]: 英語からの多言語の案件のため、特にご指示をいただいていない場合は、英語に沿って多言語化させていただいております。フルネームを記載し翻訳されている地域とは異なる地域なので、原稿内の統一性の面では問題ないかと存じます。

コメントの追加 [u7]: 【要確認】
ここは簡体字「绘」にしなくても大丈夫でしょうか（ご参考に、012-007 などでは「蒔绘」を「蒔绘」で...

コメントの追加 [VT8R7]: 変更いたしました。

コメントの追加 [u9]: 【修正指示】
誤字です。この場合は「地」が正しいので、ご修正をお願いいたします。

コメントの追加 [VT10R9]: 修正いたしました。

重而下垂或断裂。作品尾部下方两处轻微的痕迹表明，仁清在烧制作品过程中使用了支撑物来维持其形态，但仅靠这种方法并不能保证烧制成功。

仁清是当时最著名的工匠之一，也是最早使用“陶印”的著名陶艺家。陶印是一种类似于签名的标记，用于识别作者的身份。添加陶印的行为意味着一种思维的转变——通过在作品上签名，陶艺家将自己从佚名劳动者升级为为人所知的个体艺术家。这件雄雉香炉的上盖内侧（排烟口旁边）以及底部都刻有仁清之印。

雄雉香炉精妙地呈现了雉鸡的形态，亦表现出仁清娴熟的釉上彩技巧，因此在 1951 年，这件作品被指定为日本国宝。仁清创作的雄雉香炉及成双的雌雉香炉在博物馆长期展出。